

太陽光発電の適切な導入を求める意見書

現在、我が国においては、パリ協定の枠組みのもと、脱炭素社会の構築が求められており、環境負荷の削減やエネルギー安全保障等の観点から、太陽光発電を初めとする再生可能エネルギーの導入拡大が必要とされています。

こうした中、再生可能エネルギー特別措置法に基づく固定価格買取制度、いわゆるFITの施行以降、再生可能エネルギーの導入量が着実に増加してきている一方、一部の地域では、防災・景観・環境面での地域住民の不安や、固定価格買取期間の終了後に太陽光パネルが放置されるのではないかとの懸念が生じています。

よって、政府は、こうした不安や懸念を払拭しつつ、地域と共生する形で再生可能エネルギーの導入をさらに促進する観点から、太陽光発電の適切な導入に向けて、下記の措置を講じるよう強く求めます。

記

1. 再生可能エネルギー特別措置法に基づく事業計画の認定に当たり、一定規模以上の案件については地域住民への事前説明を発電事業者が義務づけるとともに、その具体的な手続を事業計画策定ガイドラインに明記するなど、地域住民との関係構築のために必要な取り組みを行うこと。
2. 太陽光発電設備が災害時に斜面崩落を誘発することのないよう、急傾斜地以外の斜面に設置される場合も含め、太陽光発電設備の斜面設置に係る技術基準の見直しを早急に行うこと。
3. 太陽光発電事業の終了後に太陽光発電設備の撤去及び適正な処分が確実に行われるよう、発電事業者による廃棄費用の積み立ての仕組みや、回収された太陽光パネルのリサイクルの仕組みの確立に向けた取り組みを進めること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

令和元年10月18日

枚方市議会議員 前田 富枝

〈提出先〉

経済産業大臣

環境大臣